

牛久入管に8年収容の男性

栄養不良で衰弱 ■一度も病院での治療なし

谷川医師 「命にかかわる状態」

党東京比例候補

出入国在留管理庁東日本入国管理センター（茨城県牛久市）に8年間収容されている男性は栄養不良で衰弱しているにもかかわらず、十分な治療を受けられていません。男性は一度も病院で治療を受けたことがないと話しています。血液検査の結果を見た谷川智行医師（日本共産党衆院東京アロック比例候補）は「すぐに入院し、検査と治療を行うべきだ」としています。

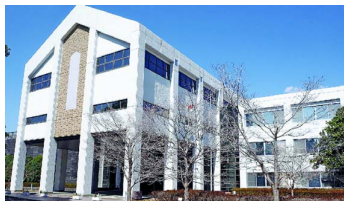
（小椋花恵）

検査名称	結果	単位	基準値
APTT	27.2	秒	25～ 40
Fib	189	mg/dl	150～ 400
血清鉄	637nL	μg/dL	54～ 200
TIBC	*****	μg/dL	253～ 365
フェリチン	1.6L	ng/mL	39.4～ 340
血算	*****		
WBC	33.5	10 ⁴ /μL	33.0～ 86.0
RBC	279L	10 ⁴ /μL	435～ 555
Hb	5.6L	g/dL	13.7～ 16.8
HCT	19.2L	%	40.7～ 50.1
MCV	68.8L	fL	83.6～ 98.2
MCH	20.1L	pg	27.5～ 33.2
MCHC	29.2L	g/dL	33.7～ 35.3
PLT	19.3	10 ⁴ /μL	15.6～ 34.8

ムスタファさんの血液検査結果。基準値より低い「L」の文字が多く、血清鉄は「6未満」

睡眠は30分しか

男性はパキスタン国籍のムスタファ・カシルさん（59）です。車いすです入管の面会室に現れました。質問には答えませんが表情は乏しく声に力がありません。髪とひげが長



東日本入国管理センター

された自身の写真をムスタファさんが見せてくれました。骨格が見えるま

下は大きくくびれ、脇腹と皮膚に布のように縦のしわが寄っています。収容されたところの写真は付きがよく健康そうでした。

命にかかわる状態です」

帰る場所はない

本紙は同センターにムスタファさんの治療経過を問い合わせましたが、同センターは「個人についてはお答えしない」と述べました。

改正悪入管法が施行されるムスタファさんは強制送還の対象になります。ムスタファさんは「パキスタンには帰る場所がない。親族も親戚もいない」と在留許可を求めています。

果を見た谷川医師は次のように述べました。「かなりひどい貧血です。ヘモグロビン値が3月の9・3から5月には5・6に急降下しており、輸血も検討される状態です。血液の材料の鉄分が枯渇しています。咯血（かっ）が続いていることが原因でしょう。栄養状態で肉が落ちてあばら骨の下は大きくくびれ、脇腹と皮膚に布のように縦のしわが寄っています。収容されたところの写真は付きがよく健康そうでした。」

ムスタファさんは1987年に来日。これまで5、6回難民認定申請をしましたが、最後の申請は5月10日に却下されました。仮放免は、「保証人もおらず保証金も払えない。住むところもなかゆを求めたが、もらえなかった」といいます。睡眠は30分しか続きません。数年前に入管内で撮影

10日にムスタファさん

面会し、血液検査の結果

めています。